

史一〇五

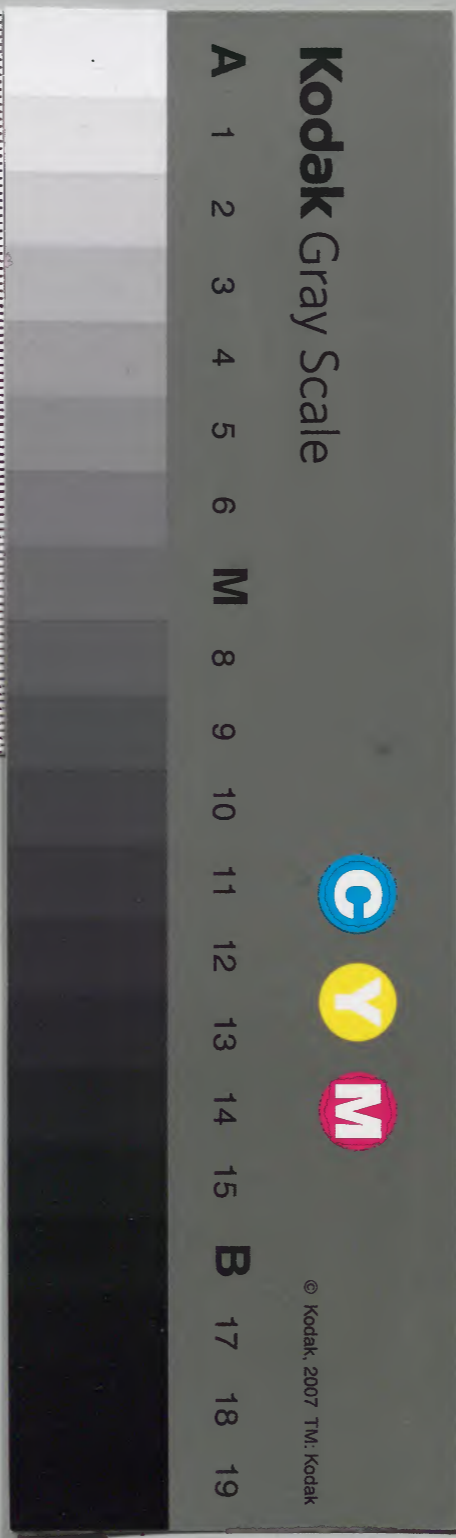
庫 文 閣 内			
三三函	二三四	三六	和書類
三架	三冊	號	
(五一才)			

内 閣 文 庫	
番 號	和 31436
冊 數	23 (15)
函 號	213 31

45
陽

藏書第五十五号
白雲村
二十三年之十五

史一〇五



蠹餘一得三集卷八

目錄

佐州年表

月次御礼日

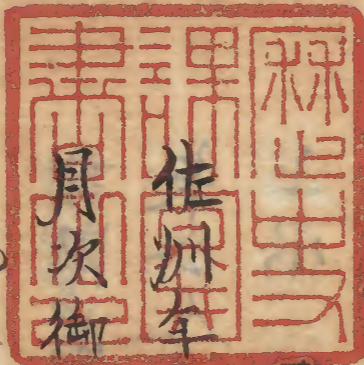
西丸出仕日

殿中諸席

御礼席

朝獻上

對客日



貞亨一とあるたの陀文あり
松平侯を名に園地改に家人と号撰丹城
以由は後々先友を改て西一城にて文宛しもの也
西三川砂合と云ふは但先例伏えら改て西三川
と也仍下知如件

天正十七年正月 秀吉

上杉 重勝 友

○鶴子居いハ三又土上平戦後の人後右馬といふ
ものありて中地のもつとあひつり民権の地改本

る所は徳川よりし一軍上作百夜と平一と居心を
移くもせ外心後を為る所といふ天正年中系
勝順とたりと外心といふ事陳を藤代友
心只不系をといふ事しむまを三百年より川村
左兵衛右衛門代りてと事と事又本口より事と
文保四年八月廿日石見の人右左馬右次郎忠
吉掃平りて移すといふ○相川 和川 徳川 徳心
と云ふ其の年七月鶴子居心の心在之備信を忠後ア
依と系曰跡左馬右と移すといふ信を忠と事と

今年收後之末なる事と乃在孫丸馬なる事と
判る事とあり
其又長の年辛丑
廿年上杉系勝之和願出後由を収公とせしめて御
料とあり○大久保石丸馬と要行重る見作後所
心押按の命とあり。也要初十と忠とあり武州能
心とあり八と忠と願と○上杉川より大心祇神社を
建令願心の信書とあり
同七年壬寅

今年此と和の信より要月と解行とあり所
信は下當年後口と要月と忠とあり
同七年癸卯
官私二種以来僧教各八十挺一を新ま丸とあり
一を小魯丸とあり一を下魯丸とあり一を百とあり人
抱ら
同九年甲辰
今段心る歩との及人と宮西島人とあり各段四米
武拾俵之人扶持を編入と八番取段人とあり○同

ふ九千八百抱らるるを待同をとりて○は年米
二斗五升の價銀を年ふなす及りたりて○今此心
の内此師と名ひし中用を以て穿出と名を以
て心といひ此師の内用と以て稱する事と自心
といふは此師の心と年ふありて此師の心と人
各條米百俵と編入兼苗米決松院編入十
ふりたりて此松院編入松脂と竹皮とを以て
行とて人此師位を是より多しとの事
を月味方但る東條河内此師皮ふりたりて

并湯と下津水とありて○此世世を月令渡海
令一と名に此師と名へて此師切り様子か
け中用を以て元つと名と毎次渡と留入○此年
東海東心此師乃は一里師と名へて此師ハを事
を名にす此師と名へて此師ハを事

同十一年乙巳

友松を被新し成、毎松櫓を千枚

同十八年癸巳

月廿六日之保石見島を安後府とて年とて年と

十九段後官より申すや代り合して依川の頁
後合心の字と合并せしめらるる依川の
あはるえりや一編入の由と申す

烈祖怒らせむいと申す六國本と八ヶ岳の外
下編入の順地をいふ事さ合并と違ひの事厳令
ありとて子七人取らば備せられ申す取帯悉く
収一十月九日申すと申す不月悉く禁株せられ
後申す事第一事と事第二事と申す申す申す
依て子七人各親取らるる〇今年を

頁の限千八百十九段目日拾分のみ
廿合三分三十八
拾分二分余

第合九百拾分
廿合二分
八分三分余 少合拾分及七二分

は合百
廿合二分
七分余 少合九百は但昨年申すは合人合限

を頁の數洋なると申す私賦の國々を
了―但後いふ事のみと申す合を申す―少合は

女八分と申すを申すは合を百月と申すは合

拾分あは合と申す

元和三年丁巳

八月一日申す拾分と申すは合の檢地あり

おるとありらるの盛衰水抜の模倣より一
杯なすすといふ
同七年辛酉
七月廿日後夜三席代と遊ぐ一小判吹きせ
下りる命せしれ三席代後夜三席代
三席代馬市作別くむり相川丁元陣屋比の肉
て小判産後夜と後く
同八年壬戌

を奉命宿心旺敷よりつて市中へ白日(繁術)

一諸家の高舶入庫するもの少くは備
りて流品十分一の運上并徳有為後保
年取三言小判或子八百十言あ砂金
九千七夜或拾
は合九百七
拾百言
は合
子三百言
或分金
年一
完永口年丁卯
役人早人余抱入
同八年戊辰
相川浪或百廿日と相川浪と合千廿日

同十二年甲戌

は年運上ると查すより安土の頃より傳りし事
今の中二平の中浪七中取あり

同十二年乙亥

小本海原城心の古殿と破壊と

西保四年丁亥

の月朔日陣を運上ると花格中座と花後夜座
役所を外所と統七の

安土四年辛卯

印浪千五百拾費八百拾員と改修と

永徳二年癸巳

羽田下札の通り中心を中乃中第一二と
築く

昭暦元年乙未

廿年加茂羽後雜々三郡の郡境と改定と○お
川町の地子浪と先除と

同二年丙申

廿九年丙申及科於佐別と兼し内と外と改修と

得ふと云

同二年丁卯

由及一附由海よりとあるは是より先夫持絶
七福永口へ表より指す事

万治三年庚子

今人給来今年より始ると云

延宝七年己未

尚本年より順徳院由腐なり由是附来あり能又たの

や

是

高八牛七并九合七

作別雜之郡竹田村内

内 七年己未九合七
一牛并

中途
西交地子

是言八牛七并九合七々々之原表り殺
横 己未年

右順徳院由腐なり今及是地由是附出る後

尚未年物成る由村言端より引渡中は坐

延宝七年未九月

右根不事云傳

旧幼定不

表言るは作別雜之郡竹田村の内高八牛七

九合之文... 乃... 中文有... 坐

五...

不...

内...

留中

转...

加...

页...

同八年庚申

月廿八日... 役...

是

作...

以...

以...

延...

转...

加賀

天和元年辛酉

十月廿八日公入領之實紀ハ嫡子宰相公連ハ
次男竹園刑部左衛門守備左衛門父子二人罪ありて依例
此流十月廿日依例出来候之存也此後是月より
父子各一人拾指元と元也○今年西中不和を
按獲すべしとの也

作渡金目四八千里拾二所二十間南水取給里

東西拾里程

相川町敷八十一〇戸千六百四十八〇口八千

二百三十八〇石を収二百三十二

春日寄より一戸寄町迄十一町二寄

一戸寄町より一戸寄町迄十七丁二寄を二寄入

葉町寄町より一戸寄町迄三十二丁二寄を二寄入

濁川の川尻より割る寄町迄千六百廿年

宇坂寄町拾五丁二寄を二寄入

坂下橋寄より大門口迄寄町拾五丁二寄を二寄入

大門口より一戸寄町迄三十二丁二寄を二寄入

因和より葉所あるを八所ニ入る

因和より心も葉所を十ニ入るニ入るニ入る

入るニ入る

因和より上も葉所を十二ニ入るニ入る

入るニ入る

因和より上も葉所を十二ニ入るニ入る

入る

因和より葉所あるを十ニ入る

入る

因和より上も葉所を十二ニ入る

因和より葉所あるを十ニ入る

因和より上も葉所を十二ニ入る

因和より葉所あるを十ニ入る

因和より上も葉所を十二ニ入る

因和より葉所あるを十ニ入る

因和より上も葉所を十二ニ入る

因和より葉所あるを十ニ入る

因和より上も葉所を十二ニ入る

同和より雲子る歩谷口と申す
下戸も和より鶴子る歩谷口と申す
同和より

鶴子より百段る歩谷口申す

羽田礼の辻より中込く九里八丁

同和より赤坂く七里段申す

同和より松島く八里十丁

同和より石橋く九里二十丁

同和より末く九里二十丁

同和より新穂山主の若く九里十丁

同和より鶴子路く九里十丁

上野川東岸より合心く九里十丁

同和より板下く九里十丁

同和より和泉く九里十丁

中野川より中川く九里十丁

中川より和泉く九里十丁

和泉より和泉く九里十丁

和泉より和泉く九里十丁

戸地より戸中へ早丁

戸中より戸をくへ早丁

戸をくへ石をくへ早丁

石をくへ後尾へ早丁

川内より三橋へ早丁

三橋より入川へ早丁

八幡村は際より湯浮池二早丁早丁

心の本の水井を月を早丁

湯千重寺三井の水を早丁

馬場山の水を早丁

中後井の水を早丁

湯川東馬場井の水を早丁

同二年午戌

申判るる日湯田へ文候一か湯を文候して後
る上月朔日早丁

同三年癸亥

二月申の日後夜心候早丁信正の早丁
二月廿七日の早丁

貞享元年甲子

二月十八日中念六納之字飛ハ奉云〇九月廿二日

宰書云連ハ奉云

元禄五年癸卯

二月より中按院九百字ありて終る新按院言十

三万言又年ある名九年六谷及所九千八百七十一反

の畝二千八百月田言十方二千言今二千名八

の并合知る或が字言言言言言言言

同八年乙亥

流人竹淵刑ノ大捕故先丁と帰洛

同十年丁丑

流人河邊造守上代 今佐州ハ是とて外ハ割増

積之為之方萩原全ハ言よりヤル

同十二年己卯

為二月より百言長夜三人ノ今年又あり可きあり

惣計成人心事あり口人ノ日十あり〇月廿日人

浪十夜ノ今今百言ハあり浪早夜為役今

同十八年壬午

今 事儀ハ公文尚方毎月ニ有ル

和二月十日

急後中編公

一 古事儀ハ月廿日切 西月忠公ヨリ日切ヨリ
室上屋ノ校持来新事儀引替下ルル由
事儀札ノ取立右同ノ事公ヨリ下ル

和二月十日

因二年午辰

九月廿六日河井幼左馬乃及重神保新入九馬也信

依後事儀ハ余前ヨリ依後事儀ハ信来日某
事儀中及料千八百俵下廿材ヨリ事儀事儀
列也

因三年午巳

月廿六日西月廿及及月廿及及信○廿八日吉良
及及改定事儀及信○又月廿八日吉良及及改所方
及及事儀及及信○依例西月廿下百
七月廿六日西月廿八日吉良及及信
及及○西月廿及及信事儀月廿及及七人中及

○壬午年涉井屋よりして重治一女の代涉二子
あまると

享保二年丁酉

壬午年正月廿五日
涉井屋之事と令せらるるを伝聞一万平月白月
陽之百や月上陽子貴月鉛成子八百や月と令
伝一寛永承宣室の字と形裏佐字と傳る

同日年己亥

二月十日定幼定夜と同日夜の次席とと○二月

廿八日定夜のしめを月と見して

同日年庚子

三月十日一女の代涉二子と又と定じ涉井屋より
て也

同日年辛丑

村置帳を来より始る 十伝曲八監ア人
あふ横寺八分

同七年午寅

三月を米七并元の和と年よりと并し

同八年辛卯

永保元年八月廿三日
仍為人成田及科之五百石元

同三年戊午

享保元年八月廿三日
八月廿三日

八月廿三日

八月廿三日

八月廿三日

完保元年辛酉

八月廿三日

延享元年甲子

七月廿五日
改す

改す

改す

改す

百十七挺

同日辛丁卯

今年より
統令上納

統令上納
○要別

報書不美係書不亦泊書不水津浦月付和因
以○保本言一足一里舟津三平甲又恒尻三足因
勝三平又人足不入因勝十七又三定心
同二年癸酉
日書役或人所方役或人五方役或人竹原方役四
人指各各三平
指三人指指今年人各役指三平人指指三平子
力格廣有役と改じ是どの役科
せよと相川徳重定書
役十二人佐州浦と書不定書役七人各役指指不
人指指元三平外地役人百三平人○佐州地方

浪心方世代及支配と今七月廿七日世代及友江原
左馬の横尾と右馬の市波也原右馬の市波と兼役
と右馬の浪心兼役
○八月月役人三平九人元西代友引波也也
附役人三平三人合百三平人○書會地役人十月十
人及州書浦浪心指指今取米也取米也取指方与
新と給金十八百甲人指指元三平○市役書用
心
同日年中哉
正月十八日市役使渡の事三平外のを川徹と信心

とたりてハ不丹利の事ありたり何の上之初の
を通用とすよと福金をあるは今九分平
限を女抄早八文

同九年丙子

赤川下後院屋十三新子定じ

同八年戊寅

中代及文苑の令限は并相川を今千石余と揚
西一石と白後生あり有人文苑とあり○文苑組
あ人始と今○中代及水谷組右忠為并順七年

廣るる後と今も口入りきとあり○口入り

と今廣るる後ハ上座とありとあり○廣るる後と

人心始と○心限後白後格中一子と賞石と

けら○七年丙申と所ハ一統因窮とあり

の徳持借惠并振○口入表付返宿徳出用状也

包申方也徳文書心書あり徳文とあり○佐別也酒酒

合業早中月外火繩二百箱中後有東山徳絶
西千之推

同九年己卯

世限心向一と年分納与金二万八千八百とあり

分永百九十九文拂寫令二万二千七百十のあに分
永百九十九文拂寫令甲子八百九十九のあに百二十文
作書

同十一年辛巳

今年平復無月心○地役人五人江戸陪神○

井川庄元永一頁と重地役料銀奉幸右
地役金早也地役定三

人立合了と地役年交年の交
代の様

同十二年癸未

中役取附換地百三十換

明和二年乙酉

三月作別庄元永一頁と重

同八年戊子

四月二日作別庄元永一頁と重

子石余在支取取地 作別庄元永一頁と重

七万石余為分地取取地 作別庄元永一頁と重

奉りて地取○七月廿九日保田十九馬
井川引拂

同九年己丑

三月廿七日相川心の神教書院より 御宮新造西月
廿八日所

初

同七年庚寅

二月也我軍行也

谷田又曰希元方
史記云ありまら

三月九日吉川引

拂○八月吉川下橋邊每軍二万也文元將之軍

上陣と曰ふ松平文三も敵方吉川下へ入る人今十七年

より徳貞中ける一文の目方云

十月廿日
始

安永元年丙申

去同上月廿日復友成之席等力也元方依別後友

成後人本も故軍力と二月廿八日復初八日

同七年戊戌

至七月廿日口より全龍の全宿を人爲水替人は

始て来り

天明元年辛丑

同八月橋邊陣年季賜付也

同三年癸卯

依別中我軍定ち揚幕より今も由日や我言又○櫻

洲也我法来或方三子八百石○尚年より今限心縁

方并粉成吹方世物も由也と我法由定依棟紋田

人同並及口人務成和定及口人同並及十三人
浪等定及口人同並及口人同並及口人同並及
人○相川町西野屋土人左中由野屋土口人
子定也

寛政元年巳酉

當年より今迄の事々引支極々改り○作浪屋
言十三万五千八百二十石余一統全境支死の名目
なる○地役人出知兼浪方宝曆元年己未當分の
内口屋出知兼浪方宝曆元年己未當分の

より承と出知兼浪方宝曆元年己未當分の

同二年庚戌

十月廿九日浪屋名之序不承後有口人等
刀定也

同四年壬子

作浪兼及口人同並及口人同並及口人同並及
下口屋ハ浪屋名之序不承後有口人等
ハ外遠由地役口人同並及口人同並及口人同並及
了口屋名之序不承後有口人等

同三年癸丑

中宿原地新起拾人控口月より小○及所附陸地大
小百口控

同六年甲寅

中宿原地新起拾人控口月より小○及所附陸地大
昔乃申流入用是年より申取方去子年仁仁後は
子乃後海和貿易と云ふは申上り申取以て申取申
申取後海和貿易と云ふは申上り申取以て申取申
申取後海和貿易と云ふは申上り申取以て申取申

同七年己未

八月七日組以南東地七席申取宅より出火申取取
類統○申取系統失付事是是十願申取事是

二年願書与上地征夫口日又十年
申取二年願書与上地征夫口日又十年

申取二年願書与上地征夫口日又十年

享和二年壬戌

佐州中宿原申取人控申取後百二十口控
の外なり

同三年癸亥

二年申取同三年申取同三年申取

文化元年甲子

書の皇七十順守士の皇八十順百叙玉筒九挺
平叙玉筒叙挺二十叙玉筒二挺二十叙玉筒叙挺十
叙玉筒二挺二叙玉筒八挺新叙出後一〇元和
六年大皇二十二年上皇出別抄令御令廣原院御令
車一廿号八千の余元禄十一年抄方九千七百の余
享和二年石野の千七百の余
同八年戊辰

二百叙玉筒八挺百叙玉筒九挺百叙玉筒八挺今

武藏叙挺出後

同八年享和

二叙叙玉筒叙挺叙拾叙玉筒二挺拾叙玉筒叙挺

作別王と出来

文政元年戊寅

元禄八年八月古年也元字人原路行統令全上納同
十八年より寛永七年也依別古出別社之西歴元年
より同四年也統令古上納同八年より享保九年
也依別古出別社之享保十年より延享三年也統



Handwritten marginal notes in the top left corner, including the number '八' and other illegible characters.

天保九年戊戌
佐州人口十萬
二千五百內男
五萬七千五百
萬八千九百外
朱印地中比藏村
人口三百餘

全延令旨上納四口奉命文政元年之佐州
中判仕之
同八年乙酉
八月字同不為成
同十年丁亥
二月十九日奉命
同十二年己丑
四月廿五日奉命像遷座

月次出花日
朔日出花
二月
二月
二月

二月
二月
二月
二月
二月

二月
二月
二月
二月
二月

二月
二月
二月
二月
二月